

## 「不要不急」を楽しむ

2020年の年末は、新型コロナ感染の第三波の渦中となった。

第一波より第二波、第二波より第三波、そのうねりの高さは増す一方である。うねりを迎える毎に蓄積するコロナ対応の経験・知見が、本来は生かされながら波は次第に低減するはずだが、我々の学習能力はどこへ行ってしまったのか？人間の、とくに集団となったときの意識・行動判断の甘さに、自らも含め未熟を感じる。

「不要・不急の外出は控えましょう」、今も連呼されるフレーズだ。ここで告白するが、春から今まで、私は適度に「不要不急」の外出を重ねてきた。

現役リタイヤ以降、主夫を専門としている私の行動は、殆ど自ら計画し実行を図ることができる自主独歩なものである。したがって基本的に「必要ではあるが今でなくてはならない」性格の行動は少なく、コントロールできる。

とはいえ、孫によく言われることがある。  
「おじいちゃん、今、それをせなアカンの？」  
確かに、慌てていて同時に2つ以上のことをやろうと焦っているときは、大概、どれかは失敗してしまうので、孫の指摘は当たっている。  
しかし、外からみて「不要不急」と映ることで、当の本人はキッチンと周囲に配慮し、計画して実行しようとする限り「必要なことをタイムリーに遂行」しているのである。

私の場合、特に「心と身体の健全さを維持する」のに必要と判断することの実行に躊躇はない。もちろん自他への感染リスクを最小限に抑制するという条件付きである。

外からは「不要不急」とみられて当然の例をあげる。

山好きの私は、毎年何度か仲間といくアルプス山行を今年は早くから断念し、標高800m天空の聖地・高野山への主な参詣道の単独全踏破を目標にした。紀の川筋から取りつく古えよりの参詣道が五つあり、これを数週間毎にトライ。登山口までは、125ccバイクに騎乗して誰とも接触せず。そして海拔ゼロメートルから、登る人のまず無い山道を一人汗して登り詰める。案の定、コロナ只中の高野山界限は、不気味なほど観光客少なく、すれ違った外国人も白人一人であった。ともかくも、2か月程かけて全参詣道踏破し、森林に満ちる清浄な空気を吸い込みながら心の栄養タンクを満タンにすることができた。

同様に、秋には、和歌山・田辺湾のシーカヤックにも初挑戦。紺碧の空と海に囲まれて、自分のかくパドルの音以外は聞こえない静寂な時間と空間を満喫した。

自適に暮らす、私のような独居高齢者の行動の多くは、他人には「不要不急」に思えるであろうが、こんな老人にStay Homeを強いると本人はロクなことにならない。

ということで、アマノジャクな私は、他人に迷惑かけない「不要不急」を自己責任で楽しんでいる。

